二〇一五（平成二七）年度
中学校入学検査問題

国語

〈受検上の注意〉一、答えは
二、字数制

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

長く技術畑（研究の専門は建築構造材料である）で仕事をし①ん、自分も技術者の端くれだと思っている（研究者、学者よりなので趣味の分野でも多くの友人ができて、みんな多かれ少な

これらの人たちの中には、もの凄い達人がいて、彼らの技にとにかく「凄い」と感じる。どうして凄いとわかるのかというとしてきたし、指先でそれを感じてきたからだ。②なにも知らない

う、と思う。「技術の凄さ」とは、説明することが難しい。凄さ

A　一方で、この種の凄い人たちは、自分では滅多に文章ン的な単文だ。僕がこの目で見て、あるいは自分で試してみて機会がほとんどない。これは当然だろうと思う。「作品をじっに貫くものだし、それは僕もそのとおりだと考える。ただ、い。だから「凄さ」は「香り」程度にしか伝わらない。

B　技術の※1神髄というものは、文章で説明ができないが技術の核心的「センス」だともいえる。

C　、剣術や舞踊などでも同じだろう。日本には茶道、※2ノウハウが文章化できないはずだ。師匠について、長年くくこれと同じ要素を持っている。だからこそ、文章化が無意味的に確立したのだろう。

ただ D 、技術を「③技道」にしない姿勢こそが「工学」にそこに特徴がある。それまで伝統的な「工芸」であったもできるものにした。大勢で共有することができる「技術」字や言葉に置き換えられ、つまりデジタルになった。さまざのだ。

こうした「 E 」が育てた人間が、工業に依存した現代※5メンバになったのが20世紀後半だったが、彼らは、技術革新覚えた世代だった。それは、彼らの師匠が F で育った人間

しかし、その後の第二世代は、 H の師匠についた世代であっという間に技術分野が広がり、知識の量が爆発的に増加しかったからだ。

こうして、数字や文字に展開されたデジタルのデータだけからデジタルへの変換でウシナワレタものがカナラズあるだろの中にはないからだ。

「上手くいかない」現実の問題に直面するのは当然である。を捻るだろう。そのような情景が方々でサンケンされる。④工学部

（注）
※1　神髄　…　一番大切なところ。
※2　ノウハウ　…　手引き書。
※4　マニュアル　…　手引き書。
※5　メンバ　…

問1　〰〰線部aの漢字については読みをひらがなで書き、b
しb・cについては、送りがなも正しく書きなさい。

問2　空らん A ～ D に当てはまる言葉として最も
ア　しかし　　イ　そもそも　　ウ　だから

問3　――線部①「自分も技術者の端くれだと思っている」とあ
ものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
ア　自分が技術者にすぎないのは仕方ないと思っている
イ　自分は一人前の技術者に早くなりたいと思っている
ウ　自分も技術者の一人であるとほこりに思っている。
エ　自分を技術者と呼ぶにはほど遠いと思っている。